東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年6月22

現世への固執

親愛なるムスリムの皆様。

人間は世俗的なものを愛し、現世での生活やそこにあるものに傾倒する性質をもって創造されています。この真実はクルアーンで「婦女、息子、莫大な金銀財宝、（血統の正しい）焼印を押した馬、家畜や田畑。これらは、現世の生活の楽しみである。だがアッラーの御側こそは、最高の安息所である。」（イムラーン家章第14節）と語っています。したがって現世の恵みの魅惑に取りつかれた人、全てを現世での生のために費やした人は常に存在してきました。しかしイスラームは、物質と精神、魂と肉体、現世と来世とのバランスを完全な形で保っているのです。そして全ての人々に、この比類なき均衡の維持を求めてきました。崇高なるアッラーは「アッラーがあなたに与えられたもので、来世の住まいを請い求め、この世におけるあなたの　（務むべき）部分を忘れてはなりません。そしてアッラーがあなたに善いものを与えられているように、あなたも善行をなし、地上において悪事に励んではなりません」（物語章77節）と命じられました。

今日、残念なことにこのバランスは現世への方へと傾いてきているのです。『世俗化』という名のこの病は、イスラーム世界においても急速に拡大しています。ただこの世界のために働き、費やし、常に自分の利益や徳にこだわり、現世的なものに投資を行う社会は、地球規模で起こっている悲劇や災難に対し多くの場合沈黙しています。一方の人々が各種の恵みの中で欲望のままに生き、一方の人々は食べ物も飲み物も見つけることができない状況なのです。完全に

この世界に固執したこの見解は決して、イスラームの認める生き方ではありえません。クルアーンでも「人びとは、交易や商品に惑わされないで、アッラーを念じ、礼拝の務めを守り、定めの喜捨に怠りなく、かれらの恐れは心も目も転倒する日である」（御光章37節）と言われています。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。崇高なる教えイスラームは私たちに、適度な基準にしたがって生産し、必要を満たすだけの量を消費し、そこから余ったものがあればそれを必要としている人と分かち合うことによって来世の住処のために備えを行うことを求めています。現世から来世にもっていくことができるのはただ私たちの行いであることを忘れてはいけません。どれほど財産があったとしても、結局私たちは白い布に包まれ、財産はこの世に残るのです。今日のフトバを、このことに関するクルアーンの言葉で締めくくります。「言ってやるがいい。『あなたがたの父、子、兄弟、あなたがたの妻、近親、あなたがたの手に入れた財産、あなたがたが不景気になることを恐れる商売、意にかなった住まいが、アッラーと使徒とかれの道のために奮闘努力するよりもあなたがたにとり好ましいならば、アッラーが命令を下されるまで待て。アッラーは掟に背いた民を導かれない。』」（悔悟章24節）